

## 事業評価調書（新規）

課名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 福田 稔 (県営整備係長 岩崎 良信)	内線	4003 (4014)
----	---------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	用排水路工	事業名	事業区間	総事業費	3.1 億円
		経営体育成 基盤整備事業	稲畑佐野地区	内用地補償費	0.04 億円
所在地			事業採択予定年度	着工予定年度	完成予定年度
丹波市氷上町稲畑、佐野 地内			H23	H23	H27

事業目的	事業内容
<p>本地区は、水稻を中心とする小規模な個別経営農家が主体の地域であり、農業従事者の高齢化や後継者不足から、これからの地域農業をいかに維持発展させていくかが課題となっている。</p> <p>これまで、地区一農場体制に向けて担い手の組織化を図り、水稻のほか、丹波大納言小豆や丹波黒大豆などのブランド作物の生産を集落営農組織が中心となって展開し、地域農業の維持発展を目指す目標を立てた。この目標に向け平成19年度に全農家117戸のうち34戸が参加する農事組合法人「稲畑どろんこ会」を設立。環境創造型農業を推進するためエコファーマーの認定を受け、農地・水・環境保全向上対策の営農活動にも取り組んでいる。</p> <p>しかし、地区内の用水路（開水路）等の水利施設は老朽化が進み、その維持管理に多大な時間と労力を費やし、生産性の向上や畑作の拡大を進める上で支障となっている。</p> <p>このため、用水路をパイプライン化して水管理の省力化を図り、縮減される時間を小豆や黒大豆等の作付面積拡大に活かすとともに、農事組合法人への農地集積も促進して、優良農地を将来にわたり維持・保全する。</p>	<p>受益面積 60.9ha (本地面積 60.3ha)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用水路工 7.8km</li> <li>・排水路工 樋門電動化等</li> <li>・暗渠排水工 0.9ha</li> <li>・補助率 [国:50%, 県:27.5%, 市:10.0%, 地元:12.5%]</li> <li>・事業主体 兵庫県</li> </ul>

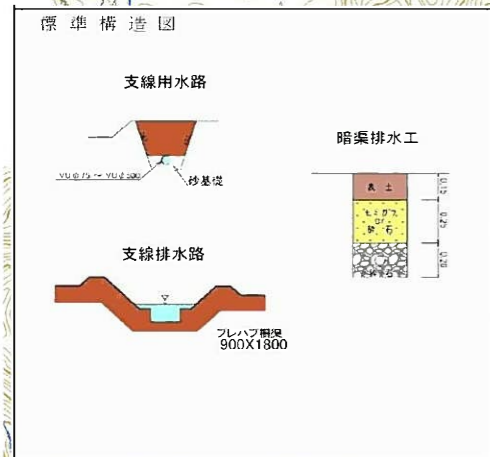
評価視点	評価結果の説明																																																
(1) 必要性	<p>今後担い手への農地集積をさらに進め、小豆や黒大豆、小麦、野菜等の作付けの増加を図る上で、既設水路の補修や水管理に多大な時間と労力を費やしていることが支障となっており、早急に用水路のパイプライン化を実施する必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手への農地集積 現況15.4ha (25.3%) →事業完了時 28.9ha (47.5%)</li> <li>・豆類 8.1ha→11.7ha 小麦 5.8ha→7.0ha 野菜等 0.9ha→2.0ha</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>水稻</th> <th>水稻 (種子用)</th> <th>水稻 (酒米)</th> <th>小豆</th> <th>黒大豆</th> <th>山の芋</th> <th>キャベツ</th> <th>トマト</th> <th>麦</th> <th>計</th> <th>耕地 利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現況作付面積</td> <td>32.8ha</td> <td>12.2ha</td> <td>1.1ha</td> <td>7.4ha</td> <td>0.7ha</td> <td>0.3ha</td> <td>0.3ha</td> <td>0.3ha</td> <td>5.8ha</td> <td>60.9ha</td> <td>101%</td> </tr> <tr> <td>計画作付面積</td> <td>32.8ha</td> <td>12.7ha</td> <td>1.1ha</td> <td>9.7ha</td> <td>2.0ha</td> <td>0.5ha</td> <td>0.8ha</td> <td>0.7ha</td> <td>7.0ha</td> <td>67.3ha</td> <td>112%</td> </tr> <tr> <td>差</td> <td>0.0ha</td> <td>0.5ha</td> <td>0.0ha</td> <td>2.3ha</td> <td>1.3ha</td> <td>0.2ha</td> <td>0.5ha</td> <td>0.4ha</td> <td>1.2ha</td> <td>6.4ha</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	水稻	水稻 (種子用)	水稻 (酒米)	小豆	黒大豆	山の芋	キャベツ	トマト	麦	計	耕地 利用率	現況作付面積	32.8ha	12.2ha	1.1ha	7.4ha	0.7ha	0.3ha	0.3ha	0.3ha	5.8ha	60.9ha	101%	計画作付面積	32.8ha	12.7ha	1.1ha	9.7ha	2.0ha	0.5ha	0.8ha	0.7ha	7.0ha	67.3ha	112%	差	0.0ha	0.5ha	0.0ha	2.3ha	1.3ha	0.2ha	0.5ha	0.4ha	1.2ha	6.4ha	
区分	水稻	水稻 (種子用)	水稻 (酒米)	小豆	黒大豆	山の芋	キャベツ	トマト	麦	計	耕地 利用率																																						
現況作付面積	32.8ha	12.2ha	1.1ha	7.4ha	0.7ha	0.3ha	0.3ha	0.3ha	5.8ha	60.9ha	101%																																						
計画作付面積	32.8ha	12.7ha	1.1ha	9.7ha	2.0ha	0.5ha	0.8ha	0.7ha	7.0ha	67.3ha	112%																																						
差	0.0ha	0.5ha	0.0ha	2.3ha	1.3ha	0.2ha	0.5ha	0.4ha	1.2ha	6.4ha																																							
(2) 有効性 ・効率性	<p>総費用総便益比B/C=1.67（総便益額(B) 634百万円、総費用額(C) 379百万円）で、事業としての効果が十分に期待できる。</p>																																																
(3) 環境適合性	<p>撤去後の用水路敷を活用して、アジサイ等の植栽を行い、景観に配慮する。</p>																																																
(4) 優先性	<p>県土整備部による河川(加古川)改修により、当地区の用水源である既存井堰の撤去・移設に伴い、付帯する取水揚水機の移設(県土整備部事業工期～H23)を契機に用水路整備(本事業)も行い、地域の安全安心と農業水利施設の一体的な改善を目指している。</p>																																																

# 平成23年度 新規採択希望 経営体育成基盤整備事業 稲畑佐野地区 計画一般図

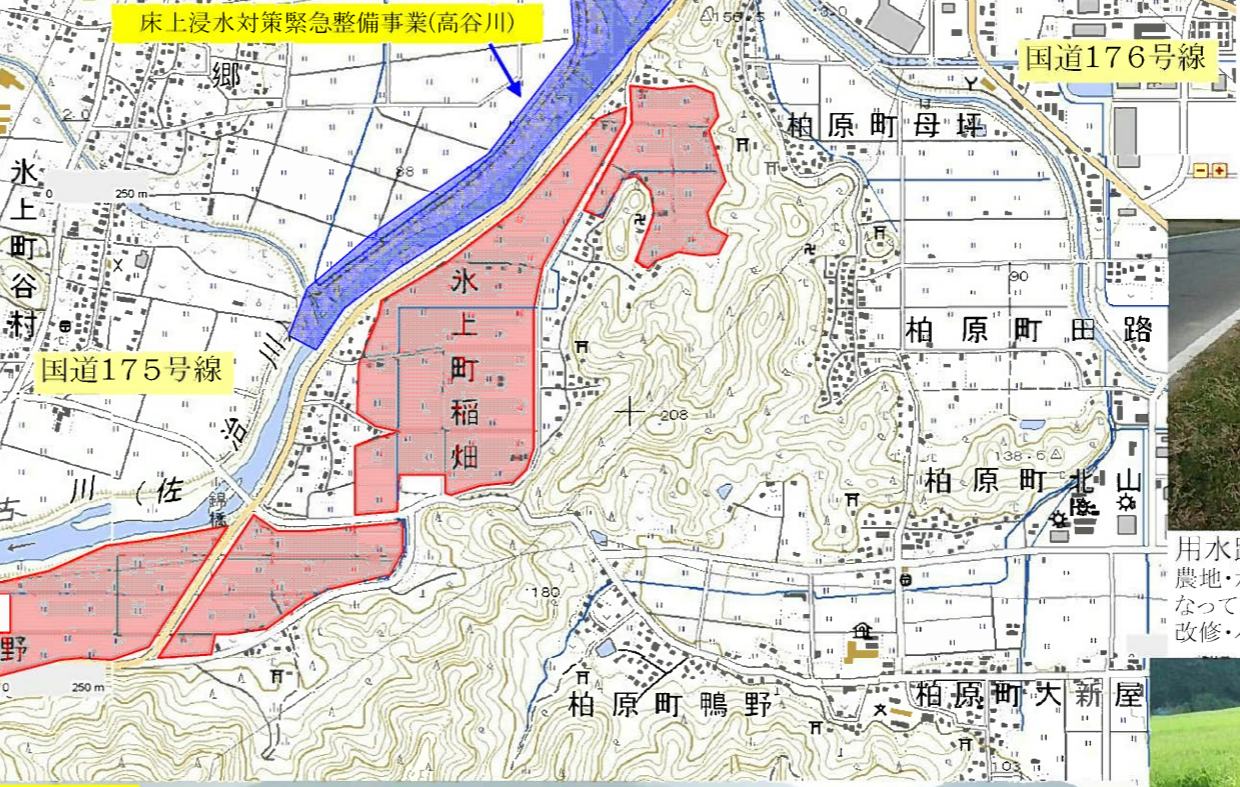
稲畑佐野地区遠景



現在の水管理  
用水の管理のためかんがい期間中は揚水機操作・吐出バルブ操作に役員が張り付いています。



排水樋門操作の電動化  
排水樋門は現在手動で操作しているが、開閉に時間がかかり、また操作者が高齢化していることから電動化を図る。



用水路の老朽化(目地補修作業)  
農地・水・環境保全向上活動により、用水路の点検、補修をおこなっていますが、水路の老朽化は予想以上に進んでおり全面改修・パイプライン化することになりました。



直売施設・朝香の里  
地元農産物・加工品の直売を行い地産地消に一役買っています。



用水路の老朽化(漏水状況)  
パイプライン化により水路沿いの湿地状況が解消され、収量の増及び小豆・大豆の作付面積増が見込まれます。

■新規事業

○当初事業  
経営体育成基盤整備事業 稲畑佐野地区 事業スケジュール

工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
実施設計		←→					
用水路工		←				→	パイプライン等
排水路工			←→				樋門電動化等
暗渠排水工			←→				

○B/C根拠  
便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
用排水路整備	①作物生産便益 (農作物の収量増加による便益)	作付増加による収益の増加 作付増減面積×現況単収×生産物単価  湿田改良による収穫量増による収益の増加 計画作付面積×(計画単収-現況単収)×生産物単価  整備により水路等の機能が保全されることで現況単収が維持確保される効果 現況作付面積×(現況単収-水路が機能損失した場合の単収)×生産物単価
	②営農経費・維持管理費 節減便益  (パイプライン化により水管理時間が減少することによる経費節減便益・水路の補修などの維持管理に要する費用節減便益)	パイプライン化により水管理に要する時間が減少することによる経費節減額 (現況単位当り営農経費-計画単位当り営農経費)×節減効果発生面積  既設の施設にかかる維持管理費と計画施設にかかる維持管理費との比較による経費節減額 既往施設維持管理費-計画施設維持管理費

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
用排水路整備	基盤整備事業 経営体育成	①作物生産便益	555	379	308	/	1.67
		②営農経費・維持管理費節減便益	79				
		計	634				

費用便益比算定:「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本方針の制定について」(農林水産省農村振興局長通達)